

全国協議会 ニュース

2023年4月1日発行 第368号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

おめでとう! 非血縁者間造血幹細胞移植 5万例到達

2月24日(金)に骨髓バンクとさい帯血バンクを介した移植が5万例に到達しました。設立前から両バンクを見守り、そして役員としても活躍された陽田顧問にご寄稿いただきました。

骨髓バンクとさい帯血バンクによる非血縁者間造血幹細胞移植5万例到達おめでとうございます。2023年2月24日、骨髓バンクは事業開始から31年で27,427例に、さい帯血バンクは24年で22,594例に達したとのこと。この間の両バンクの関係者の皆様と医療関係者の皆様の並ならぬご努力に心からの敬意を表し、お礼申し上げます。

全国協議会では2015年の設立25周年の時に、非血縁者間造血幹細胞移植3万例突破となり、記念事業として大イベントの日本縦断キャラバンを実施し、骨髓バンクやさい帯血バンクの重要性を社会にアピールすることができました。

今回も5万例達成記念として、一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会の協力を得て、学会と全国協議会の共

催で市民公開講座を開催することができました。「5万例」という数字は文字で書けばたった3文字に過ぎませんが、患者さん一人ひとりの辛く苦しい闘病と希望の積み重ねの数字であり、見ず知らずの患者さんへ、骨髓やさい帯血を提供して下さったドナーの方々の愛の積み重ねでもあります。

20年30年と歴史を重ねるにつれて、移植したことなど全く感じさせない健康そのものの「元」患者さん達が、社会の中ではつらつと活躍している姿を目にすることが珍しいことではなくなっています。

「生きる」ということは、とりもなおさず労働・消費など経済活動を行うことを意味します。仮に5万人の半数の患者さんが社会の中で経済活動を行うことが可能になったと想定すれば、

この方々がもたらす生涯の経済効果は2兆円を超えます。3割の方々と想定しても1兆円を超えます。

一方、両バンクへの国庫補助金は2023年度で約24億円。国が行う「人への投資」としては極めて費用対効果の高い事業と言えます。

危機的な少子化・人口減少時代に突入した日本においては、新たに子どもを生ま育てるという視点とともに、失う命を少なくするとうい視点があると思いますが、「失う命を少なく」という施策のひとつに、骨髓バンク・さい帯血バンク事業の充実が前述したように極めて有効な手段であります。

この両バンクの事業が持続的に発展できるよう国のさらなる支援を期待しております。

(全国協議会顧問 陽田秀夫)

第12期役員選考委員会の第2回告示

第12期(2023年7月1日~2025年6月30日)の役員選考を行うため、本年1月16日付で第1回告示により役員推薦、立候補者を募ったところ、3月1日の届出締切日までに推薦、立候補がありました。役員選考委員会規程の定める第2回役員選考委員会を3月8日に開催し、審議した結果について、以下のとおり告示します。

1. 会長、副会長、理事、監事の「推薦・立候補の状況」について
 - ・正会員(加盟団体)から提出された「推薦書および立候補届」については、不備はないことが確認された。
2. 会長、副会長、理事、監事の候補者選考結果について
 - ・会長には、2名のうちから候補者が選考された。

- ・副会長には、定数3名に対し5名の推薦があり、協議の結果、うち3名(2面上部へ続く)

第12期 役員候補者

任期2023年7月1日~2025年6月30日

役職	氏名	新・重任
会長	仲田順和	重任
副会長	大谷貴子	重任
副会長	渋谷俊徳	重任
副会長	田中重勝	新任
理事	齊藤千秋	新任
理事	佐藤民雄	新任
理事	若木 換	重任
理事	館野守男	重任
理事	鈴木敏生	新任
理事	浅野祐子	重任
理事	山口明大	重任
理事	中村福代	再任
理事	北折健次郎	重任
理事	山村詔一郎	重任
理事	村上忠雄	重任
理事	梅田正造	重任
理事	川下 勉	新任
理事	山崎裕一	重任
監事	笠原慶一	新任
監事	黒部光司	重任

全国骨髓バンクボランティアの集いを開催します

開催日：2023年5月27日(土)
14:00開始 Web開催
内容：骨髓バンクを介した移植患者とドナー経験者をお迎えし、伝えたい思いを語っていただきます。
全国協議会のホームページに参加用のURLを掲載します。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髓バンク NOW

(MONTHLY JMJP(3月15日発行)より抜粋)

■日本骨髓バンクの現状(2023年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,582	2,647	544,334	919,679
患者登録者数	193	225	1,761	66,106
移植例数	67 (19)	79 (20)	—	27,429 (1,803)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■2月の区別別ドナー登録者数

献血ルーム/688人、献血併行型集団登録会/1,884人、集団登録会/20人、その他/55人

■2月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,755人/20代 87,669人/30代 135,936人
40代 217,202人/50代 99,772人

■2月の20歳未満の登録者276人

■2月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,751件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

(1 面からの続き)

が候補者として選考された。残る2名のうち1名については基金業務を担当し、後進の基金担当理事を育成する参与として理事会に推挙することとした。

- 公募理事については、定数3名に対し立候補のあった3名全員が候補者として選考された。
- 推薦理事については、全国区推薦理事の定数3名に対し、推薦のあった3名が候補者として選考された。地

区推薦理事の定数8名に対し、推薦のあった8名全員が候補者として選考された。

- 監事については3名の推薦があったが、2名については本人の意思として監事候補者を辞退された。その結果定数(2名)割れとなったため、新たな候補に連絡し監事就任を打診したところ、本人の同意が得られたため監事候補者として選考した。

3. 理事会への報告、第2回告示などについて

- 全国協議会理事長・第176回理事会への報告 2023年3月19日(日)
- 第2回役員選考委員会告示 2023年3月20日(月)
- ホームページ上での告示
- 正会員へ告示文書の送付
- 全国協議会ニュース4月号への掲載

4. 通常総会での役員選任

2023年5月28日(日)

以上

(全国骨髄バンク推進連絡協議会役員選考委員会委員長 野村正満)

「東京マラソン2023」開催！ ついにチャリティランナーさんと対面！

全国骨髄バンク推進連絡協議会は東京マラソン2020チャリティから寄付先団体となりました。コロナ禍で延期になるなど、チャリティランナーの皆様にご挨拶できない状況が続いていましたが、ついにこの度直接お礼を伝えることができました。ありがとうございました！



(フィニッシュ後のラウンジの様子)

3月5日(日)晴天の中、「東京マラソン2023」が、約38,000人の参加を得て開催されました。ランナーの内、寄付先団体に寄付をして走るチャリティランナーは非常に多く、全国協議会を寄付先に選んでくれたランナーは63人(2020大会のランナー53人、同2023大会10人)です。

全国協議会は2019年4月に寄付先団体に選定され、2020大会の寄付者を募集しました。しかし同大会はコロナで一般ランナーの出走は中止、2021大

会は2022年3月に延期され2020大会の出走権を持った一部ランナーは出走しましたが、ランナーへの直接の対応はコロナ禍でできませんでした。今回の東京マラソン2023大会で、63人のランナーに3月2日(木)～4日(土)に東京ビッグサイトで開催された東京マラソンEXPO2023で初めてお会いする機会がありました。そして5日(日)の大会当日はコース沿道で応援を行い、また東京国際フォーラムに全国協議会が用意した個別ラウンジでランナーとご家族、ご友人に寛いでいただきました。これら活動には、東京、神奈川、埼玉、千葉の会から延べ31人もの方が応援参加くださり、感謝しています。

沿道応援では、5kmおきに各会の方が応援くださいました。

個別ラウンジでは、「ミニいのちの輝き展」も開催しました。ランナーも、ご家族の皆さんも楽しそうに過ごしていただきました。また記念撮影用に用意したボードも大変好評で、来訪者全員が写真に納まりました。ランナーからは次のお言葉をいただきました。

2020チャリティランナー小杉史彦さんは4度目の東京マラソンで「直接でなくとも何か人の助けに協力できることがないかと思い、数ある寄付先の中から選ばせていただきました。長かったコロナ禍の出口に差し掛かる中で、今日は気負わず楽しく走ることができました。困難な状況の方々が、一歩前進できるように微力ながら力になれば幸甚です。応援ありがとうございました」

2023チャリティランナー尾内英樹さんは1年4カ月前に骨髄提供をしてくださいました。「ドナーに選ばれたときはマラソン大会にエントリーしていましたがキャンセルし、トレーニングも中断して提供に臨みました。今日は骨髄バンクのタスキをかけたランナーがたくさんおられ一緒に走れてよかったです」

(東京マラソン実行委員長 梅田正造)

ゴールドジムスクール発表会



2023年2月18日(土)にカルッツかわさきにて「フィットネスフェスタゴールドジムスクール発表会2023」

を開催させて頂きました。同イベントは日頃ゴールドジムでスクールを開催している皆様の発表会というイベントになり、ご参加、ご観覧いただく皆様に募金のご協力を頂き、全額を募金させて頂くというチャリティーイベントとなります。

今回は25チーム・269人の演者様、ご来場者様は413人とコロナ禍以降では一番のイベントとなりました。

各スクールの方々は真剣に熱のこもった演技をされておりました。

コロナ禍の影響で発表会の場が非常に少なくなっているとの事で感謝のお言葉も頂く事がございました。

今後も皆様へ日頃の練習の成果を発表する場を設けさせて頂く事、チャリティーイベントを開催させて頂く事で社会貢献をして参ります。

(ゴールドジム銀座東京店 米持優一)

「3回目のお手紙 ～今、伝えたい想い～」

2月19日(日)「3回目のお手紙～今、伝えたい想い～」を開催しました。今回のイベントは、高校生の時に骨髄バンクを介して骨髄移植を受け、当時、ドナーさんにお礼のお手紙を書いたものの、その後、就職、恋愛、結婚などさまざまな人生経験を重ね、今、改めて感謝の気持ちが湧いてきた患者さんが、「3回目の手紙を書きたい」という想いから企画しました。

日本骨髄バンクは、移植後(提供後)2年間に2回のみ手紙の交換が可能です。今までも「患者さんから手紙がいただけなかった」というドナーさんや、「手紙を書いても返事がなかった」という患者さんなど、想いがすれ違っており、それぞれの想いを確認する意味でアンケート調査も行いました。

はじめにアンケートの結果ですが、患者さん側は「改めて、感謝の気持ちを伝えたい」が多かったものの、ドナーさん側は「提供については自分ができる事、当たり前のことをしただけ」とか、「手紙が来たら返事を書くけど、こちらから書くつもりはない」など、どちらかという少し患者さん側の想いとは距離を置いた形の回答が多かったです。また、「手紙を書きたかったけど、副作用で手が震えて書けず、書けるようになった時点ではもう

2年を過ぎていた」という患者さんや、「こちらから手紙を書くと、何か押しつけがましいようで申し訳ない」「患者さんが元気であるかもわからないので…」というドナーさんなど、それぞれがそれぞれの想いを持っていることを改めて知ることが出来ました。

コロナ禍、パネリストのみ現地参加とし会場には患者さん2人、ドナーさん2人、進行は大谷貴子さんにお任せし、それぞれの想いをお聞きしました。また手紙の歴史についても日本骨髄バンク移植調整部からオンラインでプレゼンしていただきました。

患者さんからは改めて感謝の気持ちを述べ、実際に書いた3回目の手紙を読んでいただきました。それを聞いていた提供時には手紙を書かなかったドナーさんも、「私が提供した患者さんも元気でいてくれていると思える」と感謝していました。また、患者さんからのお手紙を読み上げているとき、参加していたドナーさんがまるで自分が提供した患者さんであるかのように、涙を流しながら聞いていたことも印象的でした。

イベント後のアンケートも、

患者さん、ドナーさんのそれぞれの想いが確認できてよかったという回答が多く、また「従来のイベントは患者さんやドナーさんの体験談が中心だが、今回は全く違う視点で、移植後の感謝を伝える『3回目の手紙』という観点からの対談で大変心に響き、素晴らしい内容でした。」とのコメントをいただきました。

最後に今回のイベントの企画提案してくださった患者さんの「3回目のお手紙」の一部を紹介します。

(あいち骨髄バンクを支援する会 水谷久美)

ドナーさんへ
 大変ご無沙汰しています。お元気ですか？ 骨髄を提供いただいたからもう〇〇年。移植後に一度お手紙をお送りしてから、2回目のお手紙を書けないまま今まで時間が過ぎてしまったこと、ごめんなさい。最初のお手紙は病院の中で書きました。その後、体調が落ち着かない時期もありましたが、おかげ様で無事に退院し、元気に毎日を過ごしています。
 ～中略～
 当時高校生だった私は、この〇〇年の間に大学生になり、成人し、社会人になり、妻になりました。あの時、ドナーさんが私に骨髄を提供してくださらなかったら、何ひとつ実現しなかった未来でした。夫と出会い、結婚が決まったとき、できることならドナーさんを紹介したいって思いました。この方が私の命をつないでくれた人なんだよって。でもそれはできなかったんで、結婚式で、ゲストの皆さんも含めて、ドナーさんがいたから今日この日を迎えられたこととお話しさせてもらいました。
 見ず知らずの私に、ドナーさんの大切な骨髄を提供してくださってありがとうございます。私を助けてくださって、今日まで生かしてくださってありがとうございます。夫と出会わせてくださってありがとうございます。生かしていただいた命を大切に、これからも生きていきます。
 お身体に気を付けて、どうかお元気で。

シリーズ
造血幹細胞移植医療を思う

第3回 移植医療を再び考える
 おがみ 尾上裕子
 一完一

看護師として移植医療の実際に長年携わり、次は患者家族として白血病～臍帯血移植を体験した自分は、移植医療というものをどれほどわかっていたのだろうか振り返っています。現場に当たり前のように届く骨髄液や臍帯血を当たり前のように輸注して、生着後患者さんと共に喜んでいて自分、それだけでしかなかったのではないかと…。しかし、その骨髄液や臍帯血が届くまでにはもうひとつのドラマがある

ことを、今改めて考えます。

骨髄バンクの制度ができたとき「50万人の登録があれば、ほぼすべての移植を待つ患者さんへ骨髄を提供することができる」と言われ、現在ではその数をはるかに超えていながらも残念なことに移植に至らないケースがあります。いろいろ理由はあるのですが、移植医療にとって一番大事なことはドナーの確保です。骨髄提供というドナーのリスクを考えた時、本人はもちろん家族へも適切な説明ができることが大切で、その役割をバンクのボランティアの方が担って下さっている事を認識して、改めてボランティアの役割の大きさを感じました。

ドナー探しから始まる移植、一人でも多くの患者さんが移植の機会を得ら

れるように、ドナー登録者数(特に若い世代)を更に増やすための広報活動が必要かもしれません。医療の現場では本人・家族へのきめ細かい関わりを保ちながら、感染予防やGVHD(移植片対宿主病)のコントロールに力を注ぐ事が重要です。移植は真のチーム医療です。本人・その家族、ドナー本人・その家族、バンクやそのスタッフ、医療チームがひとつのチームとなり、そのチームの力が移植を支えていくのです。患者さんが一人で頑張るのではなく、チーム全員で頑張っていくのです。そして、その移植が終わった後に、もしドナーへの感謝の気持ちを思い出したなら、それを周囲の人々へ伝えていくことができたなら、それはとても素敵なことであると私は思うのです。

各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

新潟

もっと知ろう骨髄バンク & ハートフルコンサート開催

2月26日(日)見附市道の駅「パティオにいがた」で表記イベントを開催しました。

私は当団体に加入して約一年なのですが、関係者ではない、第三者が核心をついている部分もあるという事を感じました。今回行ったトークセッションで、20代表としてピアニストに参加してもらいました。「骨髄バンクを若い人に関心を持ってもらうには？」の問いに彼は「クラシックも敷居が高いと言われるが、骨髄バンクもそういう部分があると思う。もっと中高校生の時に気軽にクラシックに触れる機会を設けるように活動している。骨髄バンクも学校教育に組み込まれるといいのでは？」と言いました。その通りだと思えました。30代の司会の女性は、課題であるドナー休暇制度の導入企業が少ない事について、「骨髄バンクがもっと声をあげなければ社会は変わら



ない。」と言いました。その通りだと思えました。つまり【患者、家族、遺族会、医師とといったいわゆる関係者】だけで話すのではなく、第三者を交えて議論する事で、改めて感じる再認識であったり、新たな発見やひらめき、チャレンジに繋がると思います。

(骨髄バンク命のアサガオにいがた 古川俊治)

埼玉

3年ぶりの医療相談会・交流会開催



2月26日(日)彩の国すこやかプラザ(さいたま市)にて、3年ぶりに埼玉県との共催による『第20回血液疾患に係る医療相談会と患者・家族交

流会』が開催されました。

医療相談会には、聖路加国際病院の山下卓也先生、埼玉医科大学国際医療センターの岡村大輔先生、自治医科大学さいたま医療センターの玉置雅治先生にお忙しいなかご参加いただき、個別相談を行っていただきました。

交流会は、全国協議会の理事でもある当会の館野守男さんが進行役を務め、参加された5組の患者さんや家族の方からは、病気のことはじめ医療

費の負担、抱えている悩みなどが話されました。また、個別相談を終えられた先生方にも交流会に参加していただき、先生からは、参加者からの質問に対する回答や現状など貴重なお話がありました。

今回は、コロナ禍の影響もあり相談に来られた方は少なかったですが、久しぶりに対面で開催できたこともあり、とても有意義な会になったと感じました。(埼玉骨髄バンク推進連絡会 山中孝之)

大阪

大阪マラソン2023を走り終えて



(左から2番目：松井さん)

NPO法人関西骨髄バンク推進協会のチャリティーランナーとして大阪マラソン2023に出場しました。

私は21歳の時に骨髄バンクに登録。直後に適合通知が届きましたが、患者さん都合により提供には至りませんでした。2021年3月、2回目の適合通知。コロナ禍真っ只中でしたが、患者さんに健康な骨髄液を届けたい！パフォーマンス低下を覚悟して行動自粛。無事に入院できた時はホッとしました。

大会前には骨髄バンクランナーを募集。なんと60人を超えるランナーにご協力頂けることになり、従来からの仲間と合わせ70人以上の骨髄バンク

ランナーが黄色タスキを着用して大阪の街を駆け抜けました。

2月26日大阪マラソンでは、沿道の皆様やランナーが「骨髄バンク、がんばれー！」と声援を下さり、力を貰いました。後半ペースが落ち始めた時は自分に負けるのが悔しくて「負けてたまるか！」と声が漏れる。時は今。今こそ挑め。多くの声援に応えたい。

走れない日常を経験したからこそ、今年のお阪マラソンを走れたことは、ものすごく嬉しい気持ちと感謝の気持ちで心が満たされました。頂いた恩恵の全てを皆様に、また社会に還元していけるよう、これからも精進していきます。応援ありがとうございました。今後も一緒に骨髄バンクを伝え広めていきたいと思います。(松井一矢)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●2月21日～3月20日(敬称略)

●一般	藤波 敬子 現金 10,000円	カナザワ シンヤ 現金 10,000円	匿名 現金 1,000円	笹森 広夫 切手 2,040円	らいらっくの会 切手 40,356円	●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	万々 宏 現金 100,000円	樋田 真由美 現金 350,000円	寺田 義人 現金 30,000円	竹田 幸子 現金 20,000円	瀬間 康修 現金 10,000円	筒井 肇 現金 1,000円	塩谷 泰人 現金 1,000円	本田 真奈美 現金 5,000円	大原記念倉敷中央医療機構(募金箱) 現金 6,907円	●志村大輔支援基金	土井 政博 現金 10,000円	石橋 もと子 現金 10,000円	●募金箱	株式会社 クスリのアオキ 現金 586,793円	株式会社 マルト商事 現金 70,307円	株式会社 ナルックス 現金 10,000円	株式会社 フクヤ 現金 5,146円	株式会社 THINK フィットネス 現金 76,291円	Photo Studio any 現金 5,000円	ゴールドジム前橋群馬 現金 1,555円	株式会社 カンセキ西川田店 現金 5,907円	●つながる募金	現金 15,300円	●キモチと。	現金 5円
-----	------------------	---------------------	--------------	-----------------	--------------------	--------------------	------------------	--------------------	------------------	------------------	------------------	----------------	-----------------	------------------	-----------------------------	-----------	------------------	-------------------	------	--------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------	------------------------------	----------------------------	----------------------	-------------------------	---------	------------	--------	-------

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754
 口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会